

健康メモ

緑内障

広島市西区医師会理事
しみず眼科医院院長

清水さえ子

四〇歳以上の

日本人の百人中

五、六人が緑内

障に罹っている

と推測され、そ



の多くは自分が緑内障であることを知らないで生活しておられます。緑内障の疑いがあると患者さんに言うのと、「白内障はいいけど緑内障は失明するんでしょ？」と問い直す方が結構おられます。緑内障にもいろんなタイプがありますが、少しずつ視野が欠けてくるものの、失明までには長い年月を要するタイプが多いの

で、早期発見が最重要です。ある日突然眼の痛みとともに、ひどく眼がかすむタイプの緑内障（大丈夫、早期に治療すれば治ります）なら眼科に行きますが、無症状のタイプではなかなか眼科に行く気になれません。

紙に丸を書き、一〇秒右にバツを書き、右眼だけで丸を見つめながら紙を前後するとバツがどこかで消えます。ご存知の盲点です。盲点は固視点（見つめる点）より耳側一七度辺りにあります。盲点に対応するのは眼底の視神経乳頭です。網膜に到達した光情報は視神経繊維を通り、視神経乳頭を経由して大脳の視中枢へ伝達されます。緑内障では、視神経乳頭へ集まる視神経繊維に束状の欠損が生じるため、盲点から弧状（欠損した神経線維の走行に一致）の視野欠損が生じてきます。普段は両眼で物を見ているので、この視野欠損に気付かないうえに、片眼を隠して

見た場合も、欠損を補って上書きして見てしまうのです。従って、相当に視野欠損が進行しないと自覚できないのです。（常に盲点を上書きして物を見ているのと同様です。）そのため緑内障の診断には鋭敏な視野検査が必要になります。しかし、あんまり鋭敏だと擬陽性に出る可能性もあり、「緑内障の疑い」として暫く無治療で経過をみることもあります。四〇歳を過ぎると、幸か不幸か誰でも老眼のため本が読みづらくなります。直接眼鏡店や百貨店で老眼鏡を調達しないで、どうか眼科で診察を受け、処方箋を持って眼鏡店へお出かけください。その際、緑内障が早期に発見でき、適切な治療を受ければ、失明を恐れることはないと思います。

